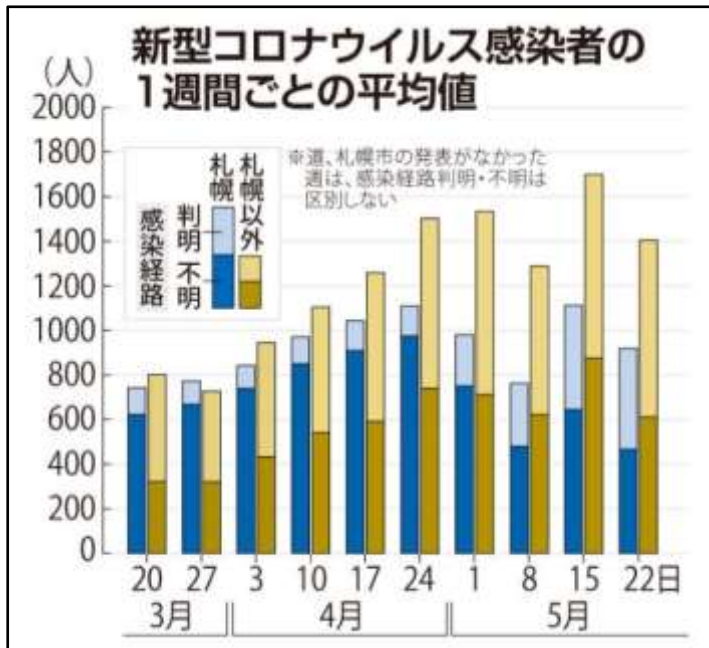


<横田教授の「コロナ」チェック>全道で減少傾向に転じる 札幌は市中感染が急減

2022/5/23 北海道新聞

道内の新型コロナウイルスの新規感染者数は、直近1週間（16日～22日）に全道で減



少傾向に転じました。特に札幌では、市中感染の広がりを表す感染経路不明者の割合が下がりました。連休明けに新規感染者が一時増えたものの、懸念していた感染拡大にはつながりませんでした。社会活動を行いながら感染を抑え込めるよう、対策に取り組んでください。

新規感染者数の平均は、札幌が前週比17.4%減の919.0人。札幌以外も同17.3%減の1405.4人でした。このうち、感染経路不明者は札幌で同27.5%減の466.9人、札幌以外では30.3%減の61

2.0人でした。

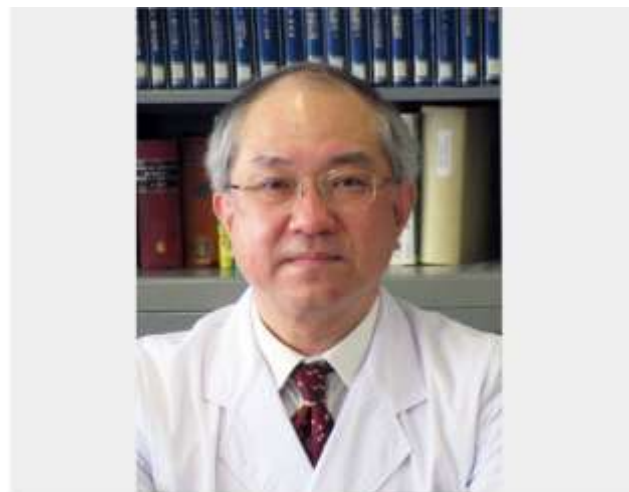
行動制限がない大型連休が感染急拡大につながることも危惧されました。ただ、普段接しない人と長時間過ごしたり会食したりする年末年始や年度替わりと比べ、観光が中心の大型連休は影響が小さかったのかもしれない。まずは一安心といえるでしょう。

前週に続き札幌を中心に感染経路不明者の割合が下がったことも明るい要素です。札幌では4月末ごろまで経路不明者の割合が80%を超えていましたが、5月に入って減少が進み、22日には44%台と半数を割り込んでいます。

感染「第6波」で積極的疫学調査が縮小された中、ようやく感染経路が追いやさしい状況になりました。不明者の割合は今のところ上昇する気配はなく、感染減少の兆しとして前向きに捉えられるでしょう。

さらに、オミクロン株の派生型で感染力の強い「BA・2」の感染ピークは越えたとみられ、第6波収束への期待も高まります。第6波では、道内各地で2度感染者増加の波がありました。特に2度目では十勝や胆振で爆発的な拡大も見られました。全国的な傾向を踏まえると、2度目のピークは「BA・2」への置き換わりによるものと考えられます。新たな懸念材料が出てこなければ、新規感染者数は減少に向かうでしょう。

国内では「BA・4」などの新たな変異株も確認され油断は禁物ですが、少しずつ通常の生活に近づけながら新型コロナと向き合う対策を講じてください。



横田 伸一（よこた・しんいち）1962年、東京都出身。札幌北高、北大理学部化学科卒。北大大学院理学研究科を修了後、住友化学工業生命工学研究所、住友製薬など民間勤務を経て、2000年、札幌医科大学微生物学講座の講師に兼任。13年から同講座教授。専門は微生物学、ウイルス学。

（聞き手・加藤祐輔）